

重富校区コミュニティ協議会

青少年育成部だより

『子どもは親や地域住民をつなぐ接着剤！』

部長 高味 英毅

今年度は青少協にとって大きな変化がありました。長い間「青少年育成協議会」という名称で活動してきましたが、8月1日をもって重富校区コミュニティ協議会の「青少年育成部」として新たにスタートしました。

活動内容は、5月17日の総会で決まったことをもとに計画的に取り組んできました。三大行事である「和菓子作り」「就労支援施設・サンテやまだとの交流」「少年の主張発表会」も滞りなく終了しました。それに年間を通してのあいらっ子見守り隊の活動も無事故で終了することができました。心から御礼申し上げます。夢に向かって、希望に燃えて、明るい未来に生きていく子どもたちは地域の宝です。

親や地域住民をつなぐ接着剤です。その子どもたちを家族で地域で育てていこうではありませんか。

今後とも青少年育成部にご協力をよろしくお願い致します。

『活動報告』

副部長 上野 弘

～サンテやまだ訪問～

今回で4回目となる就労支援施設サンテやまだへの訪問は昨年12月25日(金)に行われ小学生6名と中学生4名が参加してくれました。竹細工の作業に悪戦苦闘する子もいましたが、ほとんど全員時間内に仕上げる事ができました。施設の皆さんとも楽しく語らう時間も充実した施設訪問になりました。

～少年の主張発表会～

第34回重富校区少年の主張発表会が平成28年2月20日(土)雨の中脇元地区公民館で地域の方93名が見守る中開催されました。生徒たちも緊張の中感動的なたくさんの発表がなされました。

病気で亡くなったお母さんに感謝の気持ちを表現した発表、苦手な運動をがんばって克服しようとする

発表、将来の夢を素直に自分の言葉で語ってくれた発表、初めての海外生活での温かい対応に感動した経験、など皆さん自分の言葉で素直に表現され、会場は感動の雰囲気になりました。

また作文を熱心に指導してくださり、昨年度の途中で西紫原に教頭として栄転された浦村先生(旧6年担任)が鹿児島市内から駆けつけてくださり、発表者に激励の言葉をかけてくださいました。

少年の主張 意見発表者 (小学生)

【5年生】

西 彩音 「まずはスタートから」

脇田 夏季 「やさしい心」

居迫 真央 「血液ってすごいな」

福留 舞 「大きな拍手に支えられて」

宮脇 苑央 「私にとってのスイミング」

藤崎 和泉 「私を変えた1冊のノート」

【6年生】

寶満 希美香 「いつもありがとう」

宮脇 美空 「小さな親切」

中野 偉楓希 「母に感謝の一言を」

平田 千夏 「がんばった全国大会」

谷口 太洋 「目標を持つ」

少年の主張 意見発表者 (中学生)

【1年生】

澁谷 翠 「将来の夢」

宮原 加帆 「変わるといふ事」

【2年生】

井村 朱里 「国を超えた優しさ」

小屋敷 愛美 「相手の立場になって」

この一年を振り返って

『子育てはつづく』

重富小PTA会長 鹿子木 巧

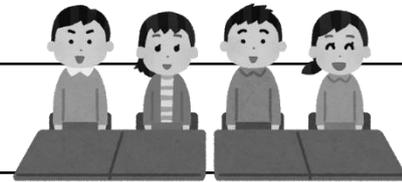
父になって14年。一言で表すならば「あつという間」です。リビングに置かれたフォトフレームを流れる子どもの写真を眺める度に、着実に成長している事を感じますが、寝顔を見ると、まだまだ子どもなのだと思う事があります。子どもと一緒に過ごせる時間も後どれくらいなのでしょう。まだ、子育て進行中ですが、ふと、寂しくなる事もあります。振り返ると「こんなにしておけば良かった、こんな言葉を掛けてあげれば良かった」と反省する事ばかりです。しかし、それも子育てには付き物。百点の子育ては出来ないし、窮屈になると思います。これから進学や就職、結婚とたくさんの未来が待っています。今からでも子育ての修正はいくらでも出来ると思いますので、地域の方々が経験してきた事に耳を傾け、子どもたちがいつまでも笑顔でいられるように活かしたいと思います。

『古里を誇りに思う子に』

重富小学校長 島子 孝一

子どもたちの素直な思いが心に届き、大きな感銘を受けた先日の「少年の主張」大会。中でも福留舞さんの「大きな拍手に支えられて」の発表は、ジュニア観光ガイド活動を企画した当事者にとって、何よりも大きな励みとなりました。関ヶ原の戦いで敵中突破した勇猛果敢な武将として名高い島津義弘が築城した平松城跡にある重富小。自分たちの通う学校の歴史や地域のことを詳しく学ばせ、ふるさと重富に対する愛着心を深め、誇りに思ってもらいたい。そんな願いの下に企画したジュニア観光ガイド活動でした。舞さんの発表を聞いて、自分の殻を破ろうと一大決心して挑戦してくれたことを知り、改めて意義ある活動になったのだなああと自己満足することでした。

さて、つい先日のことです。本校を卒業されたという二人の男性の方が来校され「学校を見せてほしい」と申し出られました。その際、学校から見える剣の平を眺めながら「剣の平には城跡があるそうですね」と尋ねられたので、「そうですよ。岩剣城と呼ばれていたそうですが、島津義弘公が初陣で攻め滅ぼした城だったそうです。あんな山の頂上で不便だったため、ここに平松城を築城させたそうですよ。」と紹介しました。すると、「自分たちが小学生の頃には、ここが平松城跡だったことも義弘公のことも何も教えてもらえなかった。こんなに歴史と伝統のある学校なのに、今にして思えば非常に残念に思う。」と話してくださいました。この話を聞いて、今後もジュニア観光ガイド活動を継続し、ふるさとへの誇りと愛着を育んでいきたいと思うことでした。



『あいらっ子見守り隊から』

あいらっ子見守り隊 日高 喜昭

私は、あいらっ子見守り隊として登下校時の旗振り活動を、日々子どもたちの元気な挨拶に励まされながら続けていますが、気がつくやうに8年の歳月が経っていました。活動当初は子どもたちの挨拶も半分ぐらいでしたが、今ではほとんどの子どもたちが元気良く挨拶してくれます。ある日、一人の女の子が「日高さん、お世話になりました。ありがとうございます。これ手紙です。」と言って渡してくれました。この手紙は今でも私の一生の宝物として持っています。又、最近歩いて通学する子どもたちが非常に多くなりました。子どもが可哀想と車で送る事は決して子どもの為に良くありません。ところで、私が旗振り活動する場所は原方南バス停のすぐ近くの交差点です。ここは信号機がなく変形した交差点で、道幅も狭く、見通しの悪いとても危険な場所です。昨年6月に危険箇所として検討会がもたれ、今年2月に白線が引かれ支柱が立てられました。これで少しは良くなったかなと思いますが、安心とは言えません。更に、以前は運転手のマナーも悪く一旦停止場所でも止まってくれず、子どもが危険にさらされていましたが最近では運転される皆様のマナーも大変良くなりました。朝の通勤時間帯、急ぐ気持ちはわかりますが、その時間は子どもたちの通学時間でもあります。「未来ある子どもたちの為」「安心」「安全」な環境を作る為、スピードの出し過ぎ、一旦停止場所の停止をお願いいたします。重富小・中学校の生徒はみんな素晴らしい子どもたちばかりです。尚、見守り隊では毎月地域の情報交換会を開いています。何か情報等がありましたら、小学校教頭までご連絡下さい。